





「放線菌」にエサ(カニ殻、エビ殻粉)をやる。手に入るものを撒く。無料の物、安価のものを撒く。オクオク。

海草屑は、笹・竹を枯らす。手に入ればこれらも撒く。三角鍬で有機物の表層をかき混ぜる。有機物を土中深くに入れない。軽く混ぜる。それだけで良い。軽労働。ラクラク。

マルチ材を地表に置く→敷く。これで、「土毎醗酵」させる。マルチは、「腐れ板」が良い。できるだけビニールは、使いたくない。不用になった大きめのコンテナの敷き板(=サナ)や、麦・米の藁、笹・萩などの刈草などで、地表を覆う。

ラワン板の腐れ板があれば、大変宜しい。腐れ板には、「菌糸」「孢子」が着いていて、醗酵時の「種菌」になるのであります。「土毎醗酵」を待つ。やがて、白い菌糸で覆われる。これぞ、「土毎醗酵」である。

耕区の中央部に、東西(or 南北)の作業路を設ける。通路の幅は、園芸店で使っている黒い策目のトレーの幅。中央を2年間、通路と決めてしまう。

通路の両側に幅広の畝を設ける。広畝のほぼ真ん中に、深溝を作る。追肥用の溝である。

中央作業路は一段下げる。排水効果を狙う。通路部分の表層を漉(す)くって、両脇に置く。更に両脇部分に、「糠」を追加。また、「手作りの有機肥料」などを置く。これで、作業路両脇の部分が、養分多めの畝になる。

作業路は、一段低くするので、作業姿勢が楽になる。通路の両端に穴を掘って若竹(正月の飾り竹など)を縦置く。これで、排水、排水。大雨が降っても水はたまらない。若竹は2年も経てば腐ってしまう。

さて、通路の片側の広畝は、「水」を好む野菜たち。もう一方は、「乾燥」好きな野菜たちの畝にする。使い分けるのである。南でも北でもどちら側の畝でも良い。

今までの野菜作りの書は、単一な野菜の説明が多い。これでは、野菜間の繋りが解らない。「水分分布」「水分の係わり」「養分の分布」などで、考え

ていきたい。

温帯原産の野菜、暖帯の野菜、亜熱帯の野菜・・・で、「畝」を使い分ける。野菜達が喜んで手を繋ぐ。そんな「畝」を作っていきたい。温暖化対策も合わせて考えていきたい。

「畝」の肥沃度。養分濃いめの「畝」。養分少な目の「畝」。使い分けをする。中央通路の両側を養分多めの「畝」とする。使い分けるのである。

広幅畝は、2年間固定する。4～5年固定でも良い。「不耕起栽培」ということ。表層を軽く混ぜるだけで良い。土中の「団粒化」が始まる。

両側の幅広の畝のほぼ真ん中に、深溝(30cm)の追肥溝を設ける。溝幅20cm。狭い溝である。「糠」「油粕」不用になった「化成8・8・8」「14・14・14」など。皆、この溝に入れてしまう。

完全有機栽培を続けているとやや養分不足になる。野菜自身がこの溝の養分を取りに行く。肥料を与えるのではなく、野菜達に養分を取りに行かせるのである。追肥溝にとりに行く。そんな作り方を考える。

やがて、全くの不耕起で、不施肥で、野菜が作れるようになってくる。

ラクラク・オクオクで作れるのであります。基本的に野菜を植えたら、隙間に種を蒔く、苗を捕植する。それだけでできる。

さて、「苗」「種子」の植え付けであるが、次の表に従う。

水分少な目

多肥

水分多め 水没

<p>西瓜 メロン 甜瓜 南瓜 ズッキーニ 大玉トマト ミニトマト 中玉トマト 山東菜 ハクサイ キャベツ ブロッコリー 菜類 ネギ 玉ネギ サヤエンドウ ソラマメ 水分小 大豆 南京豆 トウモロコシ</p>	<p>稲 蓮根 キュウリ ナス クワイ ショウガ 里芋 ピーマン パプリカ ミョウガ 大玉蕪 小蕪 蕪 芹 クレソン レタス 空心菜 ニンニク フダンソウ ニラ 洋種フダンソウ ホウレン草 水分多</p>
<p>小 黍 小麦 大麦 陸稲 粟 イチゴ 大根 二十日大根 赤・青シソ 牛蒡 馬鈴薯 山芋 サツマイモ アピオス芋 菊イモ サトウキビ レモングラス クロタラリヤ</p>	<p>多 ニンジン ミツバ アシタバ クウシンサイ レンゲ 小松菜 ツルナ 蕎、ツワブキ アキタブキ ラワンブキ 雑草たち(刈草に使う草達)</p>

小肥

## 植え付け後の手入れ

用意された畑に「苗」、「種子」を植えていく。移植ヘラで根周りの深さに掘る。子葉(双葉)が埋まるようでは深すぎる。「散水」する。暫くは水をまかない。我慢させる。萎んでしまわないように気を付ける。

種子播き後は、乾かさないように「水」を撒く。撒いた時に厚板で踏む。光りの嫌いな種子、好きな種子に気を配る。原産地での様子を考えると良い。

稲・麦の藁などでマルチする。竹チップがあれば大変宜しい。籾殻、籾殻燻炭、粉炭などがあれば撒く。マルチに使います。有る物を使います。新聞紙でも良い。防草マルチになる。製紙会社から紙マルチも用意されている。特に有機栽培の畑は乾かさない。勿論、過湿はダメだ。

「雑草」「害虫」「病気」「追肥」「土寄せ」・・・。

私の場合、追肥には、「マルタ玉肥」小粒を使っています。宮内庁御用達とかで、宮城の田んぼや畑で使われているようです。伊勢の大神宮でも使われているようです。

「生活クラブ生協」に入っていますので、色々知る。「マルタ玉肥」は、中々の優れもので、野菜たちの調子が良いのであります。元気・健康野菜になりまして、「病気」「虫が」やってこないののであります。「完全無農薬栽培」ができていますのでございます。(ゴザイマス)。なんとも優雅なことなのです・・・ネ。大・中・小粒が用意されている。

これは、「菌ちゃん農法」なのであります。「生活クラブ生協」様々なのであります。この菜種粕(油粕)の「醗酵肥料」に使われている有機物が安全なのであります。安心なのであります。

野菜たちの収穫が終わると、根元で茎を切る。根は、掘らない。地上部はやや細かく切って即マルチ資材として地表に撒く。必要なら、「糠」も撒く。「納豆」のヌメリ液を撒く。とにかくラクラク・オクオク・なのであります。次の「畝」は、三角鍬で作るだけ。大シャベルは全く要らないのであります。不耕起、不耕起。

畑づくりの始めに耕区の地表を観察する。 土の「酸度」⇒ PH 7 が中性

スギナ、カタバミ、ギシギシ、などが沢山生えているようなら酸性に傾いた畑である。 ホトケノザ、ハコベ、等では程良い中性。 多くの野菜たちは、中性から弱酸性の範囲で良く育つ。

耕作地が確保できると、直ぐに「石灰」「苦土石灰」となる。 強い酸性に傾いている場合、「石灰分」散布が良いが、石灰分は「土」を固める。 それで、遅効性の「牡蠣殻粉」「貝化石粉」が良い。 シジミやアサリの貝殻が良い。

雪が降ったように「石灰」をお播きになるのは、問題だ。 アサリを食べたら金槌で破碎し、撒けばよい。2年も経てば溶けて無くなる。

私ども(家族)が、練馬区にご縁ができたのは、1938年(昭和13年)でございます。

この年に、都立武蔵関公園ができた。 住んでおりました九段、飯田町から都電に乗りまして、西武電鉄で、高田ノ馬場～武蔵関駅。 同公園にハイキングに出かけたそうです。 駅の南口で、畑地が、分譲販売中であった。 常々探していた分譲地は、富士街道すぐ近くの南大泉の井口さん宅の農地でした。 当時の西武線の客車の開閉扉は、手動。 大変、危険極まりない車両でした。

井草、上石神井、関の辺りは、穏やかな田園で、武蔵野の「林」、「原」の続く大層な田舎でありました。

当時、日本の置かれている雲行きが、かなり怪しくなっていた。 真珠湾襲撃。 太平洋戦争が始まる。 戦時下の私達姉妹は、学童疎開(富士吉田)で、ひもじい日々。 皆がそうでしたから、べつに、当たり前とっていました。 とにかく、お腹がすきましたヨ。

千代田区を含む東京下町は、危ない。 せめて、新宿区の外側なら何とかなるであろうと、父が考えていたようでした。

父は、農家の三男坊でした。 憧れで、野菜作りをしてみたいと、何時も思っていたようで、家族の疎開先としても良いのではないかと考えていたようだった。 当時のこの地域は板橋区の南西端の地でした。 購入した土地の区画を「サワラ」(スギ科の針葉樹)で生垣を作った。 地形が正方形である。 これでは、米機に狙われる。 ポツンと四角い枠。

昭和 20 年、所沢飛行場・中島飛行場・朝霞飛行場・青梅街道の富士重工などを空爆した戦闘機が…空母艦に戻る。その時米兵が高射場施設と間違えたか、我地に爆弾投下。敷地の 1/3 の炸裂の穴が、「土」を吹き飛ばした。狙撃された。幸い家はまだ建てられていなかった。で…、…で、それで、10 人家族の悲惨な全滅はなかった。危なかった。地面に大穴が開いた。生垣の一部も吹き飛んだ。恐ろしいことだ。敵機の恰好な標的にされたのでありましょう。とにかく、親子共々、消えてしまわないで、良かった。

昭和 20 年 3 月 10 日は、忘れられない日である。

二歳年上の姉の学童疎開の寝具をリヤカーに積んで逃げ惑った。必死であった。江戸城、城壁の上の小野邸の自宅が炎上した。墨田区辺りから吹き飛んできた「火ノ玉」で、炎上した。リヤカーの掴んでいる鉄棒を放さないように必死で握っておりました。冷汗が。放したら、お終い。敵機の機銃射撃が襲いかかる。逃げ回る。小野邸の焼け落ちるのを見た。必死でリヤカーにつかまっていた。周辺が赤空で、生暖かであった。「ガザ」と同じだ。東京大空襲の日である。

敗(終)戦後、家族で土を耕し、均し、ムギ、サツマイモ、ジャガイモ、カボチャ…などを作った。今となれば小さな畑の楽しい思い出となっているのだが…。赤土むき出しの「土」で、良くできなかった。「植物とのお付き合い」が始まる。戦後の食糧不足を補う懸命な戦いであった。そこで、「畑、作り」が大好きになった。全くの素人、収穫は大したものではなかった。

ご近所の農家さんの「高橋金之助」さんには、麦藁をいただいたり、色々とお世話になりました。自然が大好きな私に養子の話が出たぐらい、高橋夫妻に気に入られていた。お子さんのいない高橋さんは本気であった。

当時、骨格標本のようにやせ細った自分は、健康上農家の生活はとても無理なので、お断りして…、で、この話はお終いになる。

特に母が、大反対。もしもお受けしていたら、衰弱していた私は、小学校も卒業できてはおるまい。とにかく栄養失調で、死にそこなっていた。それにしても、養子の話の始まりは、母からであった…。

2 月 2 日、雪になるとの情報であったが、幸いなことに小雨。小庭の白梅の蕾が膨らむ。杏子は未だ葉芽も膨らまない。「早く来い。春よ来い」。(2/2) 木瓜の蕾が大きくなりだした。



不作年の柑橘類

スプリングアーリー 夏蜜柑 八朔 早生ミカン

豆柿の干し柿



「ママレード」でも・・・作ってもらいましょう。

T、